

パートナーシップおかや

No.16

岡谷市男女共同参画推進市民の会

改めて考えてみる「男女共同参画」

岡谷市区長会(中屋区区长) 山田 幸作



私は、区政の最優先課題は、「先輩方の知恵で築き上げられた地域風土を大切に、より住みよい区にすること」にあり、これを実現するため、区が企画・実行する諸事業や活動は、「男女共同参画の考え方」を基本に置いて進めていければ……と考えています。また、この「最優先課題」と「男女共同参画」に共通するものは「参加」と「協働」ではないかと思っています。

当中屋区には、女性の区会議員が2人います。過日行われた「岡谷市女性区会議員懇談会」で、このお二人は次のような発言をされました。

- ・(発言①)「区の諸行事・活動の中では、男も女も関係なくやっている。男の人もお勝手のことをやってくれている」(要旨)
- ・(発言②)「今どきの女性は、外にも仕事を持ち、家では子どもをしっかり守り、家事も一人でこなし、その上、夕刻から始まる区議会に出て行くことは大変なことである」(要旨)

私は、この(発言①)を聞いて、当中屋区の区政の進め方・区のありように「ある評価」をいただいたものと嬉しく思いました。私だけでなく、歴代の区長さん(組織の上に立つもの・長)が、「参加」と「協働」を説き、これを奨励・評価しながら、実践されてきた成果が現実に見えてきた思いがしたのです。組織は、「参加」と「協働」を通じて男女共同参画社会の一端を担うことが出来るのではないか、そのためにも「組織の長」は、説くだけではなく、出された成果を(男女を問わず)正しく評価し、尊重してあげることが大切であると強く感じた次第です。

また、(発言②)を聞いて、「男女共同参画社会実現」は、人々(男と女)の「意識のあり方、心のありよう」といった目には見えない「何か」だけに頼っているだけでは限界があることを改めて知ることができました。「人間らしく生きていきたい。地域の活動やボランティアの活動もやりたい。そのためにも、今の働き方を見直したい」「仕事とそれ以外の生活の両立を図りたい」との願いは、男女を問わず多くの人が望んでいることだと思います。しかし、この望みは「社会全体の意識・仕組み・価値の基準」を変えていかないと実現させることが難しいのではないかと思います。私は、「男女共同参画社会実現」のためには、人々の心や意識に訴えることを続けつつ、「社会全体の意識のあり方・仕組み・価値の基準」を変えていこうとする大きなうねりが出てくることを期待しています。

パートナーシップ講座「幸せについて考えてみましょう」開催

開催日：3月17日(月)午後7時～8時30分 場所：イルプラザカルチャーセンター多目的ホール

テーマ：オランダ人はなぜ幸せを感じているのだろうか？(ワークシェアリングと教育の自由)

講師(話題提供)：小池喜代さん(国際女性教育振興会長野県支部長、岡谷市男女共同参画推進市民の会)

講座は、昨年11月、オランダを視察研修された小池さんより、「オランダ事情報告」を伺うことから始まりました。小池さんは、一部解説も含め、次のように報告されました。

- (学校制度)教育の自由(設置の自由、理念の自由、方法の自由)が保障されているオランダの学校は、多様で複線的な学びの場となっており、一人ひとりのこどもの「個性」を重視し、社会の中で「自分はどのような役割(仕事)を担うのか」を自主的・自律的に判断・選択できる制度になっている。
- オランダは、1980年代前半に経験した「経済・社会の苦境(失業率14%)」の中で、政労使3者が「個ではなく、国全体の調和が図れる模索」を続け、ワッセナー合意に至った。これにより「ワークシェアリングおよびパートタイム労働」が普及。失業率は改善され、完全雇用状態となった。
- オランダのパートタイム労働(オランダ・モデル)は、①男女、非正規・正規・派遣労働を問わず、同一労働・同一賃金 ②週あたりの労働時間35時間以内。全労働者の約半数がパートタイムでの働き方を選択し、「ワーク・ライフ・バランス」に重きを置いた日常生活をしている。
- 「教育の自由」の下で自立(自律)の精神を培ったオランダの人々は、多様な働き方が可能となるワークシェアリング(パートタイム労働)を活用して、「独自のライフスタイル」築いている。この「独自のライフスタイル」を築けることが、子どもにも大人にも「幸福感」をもたらしているようだ。

以上の報告(解説)を聞いた後、参加された皆さん(17名)は、日本の事情との比較等も交えて各々の考え方・意見を出し合い、議論を交わしながら、「幸福感」「幸福観」について理解を深め合いました。

「トータルヘルスプラン」を提唱
健康運動で「生涯元気に！」実践・指導

(川岸上) 深沢 由子さん

◎心身の健康をトータルにデザイン・指導する「資格」の持ち主

「中高年を元気にしよう」との厚生労働省の呼びかけで研修を受け、「健康運動指導士」(＝生活習慣病を予防し、健康を維持・増進するため、個人の体力に合った運動計画を立て、指導できる資格。公益財団法人「健康・体力づくり事業財団」が認定する民間資格)を取得されたのは、深沢さん50歳の時。この他にも「ヘルスケアトレーナー・リーダー」「心理相談員」等の資格(称号)もお持ちで、多くの皆さんに「健康で生き生きと生活するための提案」を続けておられます。

◎信念をもった情熱家…「健康に生活する」⇒「楽しく運動を続けましょう」

☆長年にわたって、川岸地区の食生活改善委員会(すずしろ)に携わってこられた深沢さん。ここでも、市民の皆さんに「食べるだけではなく、運動の大切さ」を熱心に呼びかけておられます。

☆以前、「婦人教育推進協議会」の仲間の皆さんとともに、ボランティアで「洗心荘」に通われ、皆さまに「運動の大切さ」を指導されました。その際、指導を受けているお年寄りの皆さん (写真)元気に走り回る子供たちを優しく見守る深沢さん(川岸小学校体育館にて)の目が生き生きと輝いていることを目の当たりにされ、「楽しく運動することの大切さ」「運動を長続きさせる秘訣は、先ず楽しくなければ」と実感されたのでした。

☆現在は、社会福祉協議会や市町村関係からの要請を受け、様々などころに出向き、正しい「真向法体操」を指導され、各所に「健康志向グループ」を立ち上げておられます。深沢さんは、「長野県真向法協会指導部長」の肩書きもお持ちなのです。

☆また、深沢さんは、「お年寄りの健康のために」と請われて千曲市にボランティアで通われ、かれこれ15年になります。「ダンベル(布袋に玄米入り)で音楽に合わせて体操したり、おしゃべりして仲間作りをしているのです。これも大事なことなんです。」と明るく語って下さいました。

◎子どもたちを心から慈しんでおられる深沢さん、これからの女性の皆さんにエールを送ってくれました

☆平成21年度、岡谷市の「放課後の子どもの居場所づくり事業」のモデルに選定された「川岸小学校 放課後子ども教室『とちっ子ひろば』」。これも、深沢さんの以前からの献身的なご尽力があって出来たものでした。平成21年以来、同教室の運営委員長を務めておられます。

☆「核家族化が進む中で、子どもたちの心の育ちが抜け落ちていくように感じる。子どもたちの創造性は遊びの中から生まれてくる。体を動かさないと、痛いことややってはいけないことが理解出来ない。冒険や、体験を重ねることによって、こどもが持っているよいものを引き出すことが出来る。」…深沢さんは「実践的教育者」でもあるのです。

☆「これからの女性は、社会的に整ってきた制度や支援策を大いに活用・利用して経済的に自立し、子どもを沢山産んで下さい。仕事以上に大切なものがある筈です。夫婦が楽しく、より多くの人と関わり合い、生まれてくる子どもは社会の子、地域の子として、社会全体でよりよく育てていきましょう」「年齢などは気にせず、アンテナを高く上げて進んで下さい。」



3月8日は、女性連帯の日「国際女性デー」です

3月8日は「国際女性デー」。この日、ヨーロッパの国々の各職場は、ちょっと華やいだ雰囲気になると聞きました。男性の同僚が、オフィスの女性陣に、日頃の感謝を込めて黄色い「ミモザの花」などをプレゼントするというのです。

この女性の記念日は、1908年3月8日、米国ニューヨークで女性労働者が参政権を求めデモ行進したのを契機に、欧米各国で「女性の政治的自由と平等のための記念日を設けよう」という機運が盛り上がり、これが発展してできたということです。ロシアの女性たちが、1917年の国際女性デーの日に起こしたデモは、男性や兵士を巻



き込んで大規模な蜂起にまで発展し、帝政ロシアを倒すに至ったほどでした。これが当時のロシア暦でいう「2月革命」(3月革命)であったのです。

日本では、1923(大正12)年3月8日、社会主義女性団体が初の集会を東京で開催しました。

国連は、1975年を「国際婦人年」と定め、記念行事等が各国で開催されました。これを機に、以降の3月8日を「国際女性デー」とすることになったのでした。

現在では、女性に対する差別撤廃と、社会開発への「完全で平等な参加」に向けた環境整備に貢献出来るよう、加盟各国に呼びかける「女性連帯の日」となっています。

「男女共同参画おかやプランV」…計画策定検討委員会スタート

私たち「市民の会」は、「プランV」策定に全面的に協力して参ります

岡谷市は、1月31日、13人の委員からなる「計画策定検討委員会」を立ち上げ、第5次男女共同参画計画「認め合い ともに輝く 男女共同参画おかやプランV」の策定にとりかかりました。平成26年10月に予定されている「男女共同参画審議会」に提出する「計画(諮問案)」を9月中には作成出来るよう、検討を加速させていく計画です。

この「プランV」は、平成27年度からの5年間、岡谷市が「男女共同参画」を推し進めていく上での「指針」となるものです。私たち「市民の会」は、計画策定検討委員会に「市民目線での建設的・具体的な意見」を提言し、実効性のある計画「プランV」が策定されますよう全面的に協力していきたいと考えています。

この「策定検討委員会」立ち上がりを機に、「市民の会」は次の4項目を「意見」として提出して参ります。

1. 「男女共同参画」は、スローガンではなく、「岡谷(日本)をより成熟度を増した社会としていくために必要かつ重要な課題である」と前向きに(プラス思考で)捉えることのできる計画にして下さい。

○いわゆる「失われた20年」を経験し、将来への明るい展望を描くことが出来ずに30~40歳台を迎えた世代は、「(家庭内では)男女(夫婦)が協力し合えないと、自らの生活が成り立たない、子どもを儲けたり、親の介護をすることも出来ない」と、内向きに男女共同参画を考える傾向が出てきています。

○この「内向き」傾向は、今後しばらく(日本経済がデフレ体質から脱却し、成長路線を回復するまでは)続くと思われれます。「内向き」だけではなく、「社会全体を質的に向上させるために男女共同参画が大切である」と訴える計画にして下さい。



(写真)様々な提言を頂いた パートナーシップ講座「女性区会議員懇談会」(11月)

2. 「男女共同参画」は、「女性の側だけの課題ではなく、人間(両性)にとって必要で重く受け止めるべき課題である」と主張する計画にして下さい。

○昨年夏に実施した「男女共同参画に関するアンケート調査」の結果から伺えることは、「社会生活の中で感じる男女の平等感」の捉え方・感じ方に、男女間で開きが出ているということです。

このことは、男性は、「平等」を観念的に捉えているのに対して、女性は、「現実に生活し、人間らしく生きるレベル」で捉えている「意識のズレの表れ」と理解します。

○とくに男性側の意識を「現実の生活ベース」で捉えていくよう促す「両性ともに“ワーク・ライフ・バランス”に重きを置いた人生設計を」とのメッセージが伝わる計画にして下さい。

3. 岡谷市の区・地域・町内の中に、「参加」と「協働」の大切さを認識し、ここに「価値の基準・評価の基準」を置くことを促す計画にして下さい。

○「教養・連帯・地域社会への貢献など」を目的に、地域コミュニティづくりに大きく貢献してきた市民団体(壮年会・婦人会・青年団など)が、組織を維持し、活動を続けていくことが困難になってきています。「地域のリーダー」も育ちにくくなっていきます。



幸福観・幸福観を考えたパートナーシップ講座(3月)

○私たちは、パートナーシップ講座「岡谷市女性区会議員懇談会」を開催しました。

この中で、女性区会議員(区役員)の皆さまは様々な問題意識をもって区・地域のことを見ていることを改めて知ることが出来ました。この女性議員がもっている問題意識が正しく評価され、区の事業・活動に反映されれば、「男女共同参画で築く地域社会づくり」に貢献するものと思われれます。

○「参加」と「協働」の大切さを認識され、区・町内で活躍する女性役員の実績・役割を評価・奨励しようとする区(区長)が増えています。こうした区(区長)を激励・後押しする計画にして下さい。

4. プランVの内容は「家庭生活の充実」をベースにしつつも、「職場環境の充実」「ワーク・ライフ・バランス」を意識的に強調する計画にして下さい。

○私たちは、パートナーシップ講座「幸せについて考えてみましょう」を開催し(写真左上)、ユニセフから「子どもの幸福度世界一」と評されている「オランダの例」(本紙1ページ参照)について学ぶ機会をもちました。ライフステージに応じて、「ワーク・ライフ・バランス」を意識した生活パターンが選択出来る社会システムを築けたことが、「子どもの幸福度世界一」につながったことを学びました。

○風土・歴史・社会保障制度・学校制度等、オランダと日本の間には格差が多く、オランダの成功事例を日本に持ち込むことは出来ないが、「ワーク(=効率・高生産性・高利潤)優先の価値判断基準を「ライフ(=心の豊かさ、安心・安全)」に重点を移していこうと主張する計画にして下さい。

男女共同参画推進県民会議主催「男女共同参画推進団体等交流会」に参加しました テーマ「男女がともに生き生きと暮らす地域づくり」

開催日:2月5日(水)午後1時~4時30分 開催場所:長野県総合教育センター(塩尻市)
参加者:長野県内各地から約100人(1グループ6人×16グループ)、岡谷市からは、5人参加

交流会は、全体セッション(事例発表)と、グループ別「ワークショップ」の2部構成で進められました。

1. 全体セッション……2件の事例発表がありました。

- ①松本市・福嶋昭子さん「男女共同参画による住民主役の地域づくりへの歩み」を事例として発表。
 - ②軽井沢町・米沢美津子さん「平成14年以降、軽井沢町男女共同参画推進委員会会長を6期継続して務めてきた経過・実績」を事例として発表。
- ・両事例とも、「如何にしたらより多くの皆さんの関心と呼び、継続した活動とすることが出来るか」試行錯誤を繰り返しながら、「協働」と「参加」を地道に働きかけてきた経過(結果)の報告でした。

2. グループ別「ワークショップ」セッション

大宮 登氏(高崎経済大学地域政策学部教授)を講師に、「ワークショップ手法」を使って「男女共同参画の地域づくり」を考える「グループ別セッション」がもたれました。

- 1)講師より「カード法によるワークショップの方法」について説明を受けた後、順次次のサブテーマが与えられ、各グループ(16グループ)は、カードを使っての「ワークショップ」を行いました。

○男女共同参画の地域づくりについての現状分析

- ①「男と女が協力してうまくいっていること」をピックアップする。
- ②「男と女が協力できないこと」をピックアップする。
- ③「これから男と女が協力してやってみたいこと」をピックアップする。

○(男女共同参画の地域づくりに向けて)グループ論議で抽出された問題点の共有化を行う。

- 2)講師より、ワークショップの進捗状況を見ながら、次のようなコメントがありました。

- ①日本の人口は、今後漸減し、9千万人程度で落ち着くことになるだろう。今後の20年間に亘って続く「高齢化社会」をどう乗り越えていくか世界から注目されている。
- ②日本は「都市化」を進めてきたが、同時に「個人化」が進み、共同体のつながり、家族のつながりが希薄になっている。「個人化」の結果、孤独な子育てノイローゼ、不登校、引きこもり、老人の孤独死、大人の男5人に1人、女4人に1人が独身、等が見られる。
- ③「個人化」が進んでも、「人は一人だけでは一人前にはなれない」「一人でいるだけでは成長できない」「こもってしまえば、こもりきりになってしまう」ことを再度思い返し・確認したい。そこで
・大人と学生が交流して行われる活動(行事・イベント)は成功することが知られている。多様な人と交わる、色んな人と接することにより、人は「考え方」を前向きに変えることが出来る。
・女のおしゃべりの中に男が入ると変化が起こる。立場の違う人も受容れることをしてみよう。
・多様な経験が人間を豊かにする。多様な経験がよい街づくりにもつながる。

- 3)男女共同参画の地域づくりに向けて(まとめ)

- ①地域づくりでは、意味がなくなってしまったルールのようなものは改め、「これは皆でやりましょう」というものを一つ位はつくってみよう。
- ②長野県は全国一の長寿県。しかし女性の役員登用や、活躍の度合いは全国でも下位にある。この現実を早急に改善していきたい。

役員を退任します

私ども3名は、平成24・25年度の2年間、「市民の会」役員を務めさせていただきました。「市民の会」会員の皆さま、各種団体役員の方のご理解とご協力をいただきながら、事務局をお引受けいただいている岡谷市企画課との協働による「男女共同参画推進事業」に微力を傾けて参りました。

「男女共同参画おかやプランIV(最終目標年度:平成26年度)」を実行する重要年度であったこの2年間の活動を振り返りますと、内心忸怩たるものがございますが、今後とも、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みを、皆さまとご一緒に続けて参る所存です。お支え下さった皆さまに心より感謝申し上げます。

(会長) 三澤 勲 (副会長) 小口光子 宮坂安壽恵

